



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.100 2022 年 12 月 発行

Yodorik News 100 号の歩みを振り返って

淀川愛好会相談役 澤井 健二

淀川愛好会 (Yodo River Club) では、1997 年 4 月の発足から 1 年を経た 1998 年 3 月に機関誌 Yodorik News No. 1 を発刊して以来、25 年間にわたって、3 ヶ月ごとに News を発行し、活動報告と活動案内を続けてまいりました。最初の数年間は、ページ数もまちまちでしたが、やがて 4 ページのスタイルが定着し、No. 53 からは 1 ページ目に社会人会員、4 ページ目に学生会員の窓を設け、さらに No. 81 からは 1 ページ目に会員以外も含めた社会人の窓を設けて、エッセイを頂戴してきました。No. 93 からは、書籍紹介のコーナーも設けています。そして、No. 1 からすべての号の PDF ファイルを摂南大学都市環境工学科ホームページに掲載していただいています。記念すべき 100 号の発行にあたって、関係各位のご理解とご協力に改めて御礼申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

〈 社会人の窓 20 〉

小泉川にアユが登る日 あの手この手で水を通そう

柳沼 宣裕

京都府庁で森林整備の協定調印式・長岡京市で植林式

日本水防災普及センターでは、2 年前から京都西山で企業や行政と連携した森林整備を行いたいと考え、調整を進めてきましたが、10 月 13 日(木)にエルセラーン化粧品会社、西山森林整備協議会、京都モデルフォレスト協会、長岡京市、京都府の間で協定が結ばれ、エルセラーンの森プロジェクト「京都西山」がスタートしました。この会社は子どもに重点をおいているため、子どもたちに良い環境を残したいと計画を始めたのです。また 11 月 17 日(木)に協定地で市長、府森林事務所長、地元団体副代表を含め 100 人で植林式を行い、シイやカシなど広葉樹を 80 本植えました。今回協定を結んだ土地は針葉樹と広葉樹が混在していて、戦後のエネルギー革命後どうしても人手が入らなく森の中に光が射し込みませんでした。広さは 0.4ha で、小泉川流域全体の面積 1000ha に比べるとほんの一部にすぎませんが、まずはそこからです。

あの手この手で水量を平準化させる

小泉川は長さが 5.6km、流域面積が 10.0 km²の府管理の一級河川です。課題は水量の安定化です。いわゆるゲリラ豪雨が降ると府管理河川でも 3 番目に水位が速く上がり、10 分間で 1.2m 程度急増します。また桂川との接合部には国土交通省管理の魚道がありますが、水量不足などでアユの遡上時期に水が無くなってしまいう時があるのです。流域が狭く竹林を含めた山地部が多く、雨が降った時にすぐ桂川に流れ流域内にとどまりにくいのです。そのため植林だけではなく、ため池・田んぼ対策、排水・下水対策等、様々な対応策が必要となります。

継続のためには、人が興味を持てるように

河川での対策だけを考えれば施設での対応ができます。しかし森林の場合はそうはいきません。保水力を維持するためには森林という場所を広く薄く整備をしなければならないのです。そうするとどうしても「人の作業」が必要となります。そのためにも楽しい作業が必要となります。ぜひともアユが登り子どもが集まる川にしてみたいと考えています。

(NPO 法人日本水防災普及センター事務局長)

仁枝洋さんを偲ぶ会

8 月 31 日に逝去された仁枝洋さんを偲ぶ会が、10 月 23 日(日)午後 6 時より、長岡京市中央生涯学習センターメインホールで行われ、50 名余の参加者のもとで、黙祷、弔辞、スライドショーの後、参加者の一人一人から故人のエピソードなどが紹介されました。式場では遺影の周りに野草を飾り、自然をこよなく愛された仁枝さんを偲びました。(S・K)



イベント報告

ひよし龍の森秋まつり

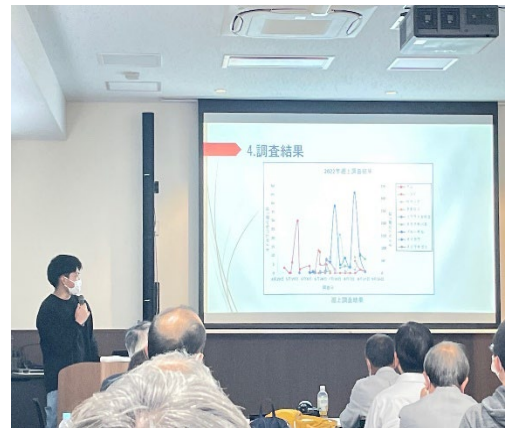
10月16日にスプリング日吉にて龍秋まつりが行われました。主催は龍の森プロジェクトで、ここから1名、スプリング日吉から3名、エコシビル部から3名が参加しました。このまつりでは地域限定の龍神なべや焼き芋、いんげんなどを販売し、学生と主催者、地元住民との交流を深めました。販売が終わった後には、ダムを見学し、その地域の歴史やダムについて学びました。地元住民との交流を目的とした活動で貴重な体験をすることができ、地域を盛り上げていくためにはこのようなイベントをもっと多くすべきと思えるほど活気のあるイベントだと思いました。その後のダム見学ではダム建設の被害にあった地域について学ぶことができ新たな知識を得ることができました。(M・S)



会場風景

第12回 川の恵みを活かすフォーラム

10月23日(日)、流域災害研究センター宇治川オープンラボラトリーにて、京の川の恵みを活かす会が主催の「第12回川の恵みを活かすフォーラム」が開催されました。午前の部では、「淀川水系のアユモドキの復活を考える」といったテーマのもと、京淀川漁業協同組合理事の藤林幸次氏、京都大学 アジア・アフリカ地域研究科名誉教授の岩田明久氏、NPO 法人 亀岡 人と自然のネットワーク代表の仲田丞治氏による講演が行われました。午後の部では2022年度の報告が実施され、当日フォーラムに参加していた12団体が発表しました。また、翌週の30日(日)には同所にて、食味会が開催されました。鮎をはじめとした様々な川魚を味わうことができました。特に、鯉やナマズといった普段めったに食べる機会がないような食材を試食することができ、良い経験となりました。(N・Y)



ゼミ生の報告の様子

天若湖アートプロジェクト2022「あかりがつなく記憶」

2022年11月13日(日)の夜間に天若湖アートプロジェクトが主催する「あかりがつなく記憶」が京都府南丹市日吉町にある日吉ダムとそのダム湖である天若湖で開催されました。2005年から続けられているこのプロジェクトは日吉ダム建設に伴って水没した5つの集落の、家屋があった場所をGPSによってわかりだし、その真上に当たる湖面にライトを設置することによって、かつてこの地域にあったはずの夜景を再現する、全長4kmにわたる巨大アート作品を形成するものです。(天若湖アートプロジェクトホームページ引用) 以前は大きく宣伝し遠方から見に来ていただいていたのですが、新型コロナの流行後は技術継承を目的としました。前日から学生スタッフによる準備が行われ、当日は荒天の中、日吉ダム管理所の協力の下、摂南大学のエコシビル部に所属する学生やOB、プロジェクトに関わる方々の尽力があり開催することができました。夜間には集落ごとの明かりを巡るツアーが開催され地元の方などがかつて存在した天若の集落に思いを寄せる時間となりました。(M・T)



天若湖に浮かぶあかり

クリーンリバー寝屋川

11月20日に寝屋川クリーンリバーが行われる予定でした。この活動には、エコシビル部、ねや川水辺クラブ、河川レンジャー、寝屋川市役所の方々が参加し、せせらぎ公園と幸町公園で草抜きや不要な木の伐採、その他ゴミ拾いなどを行う予定でしたが雨天のため中止となりました。本番の2週間前と前日に上記と同じ団体で準備をしましたが、中止になってしまったことを残念に思います。(H・R)

水害碑探訪バスツアー in 大阪・京都・滋賀

9月18日(日)に日本水防災普及センターの主催で、16名の参加のもと、大阪府の水害碑探訪バスツアーが行われ、まず、堺市大浜公園の蘇鉄山の麓にある擁護堰(ようごじ)の石碑を見学後、大阪市港区大正橋の袂にある大地震両川口津波記の碑を見学しました。これらの碑には、いずれも1854(嘉永7、安政元)年に起こった東南海・南海地震に伴う大津波による被害の戒めが記されています。次に、大阪市東成区深江郷土資料館で、角谷一圭・人間国宝の菅笠を見学後、「明治十八年酉年洪水記念碑」の説明を受けました。この碑は、1885(明治18)年6月の大雨により枚方で起きた淀川の堤防決壊「伊加賀切れ」の影響がこの地まで及んだことを記しています。その後、寝屋川治水緑地で昼食休憩を取り、枚方市伊加賀にある「明治十八年洪水碑」と高槻市大塚にある大正6年「大塚切れ洪水記念碑」を見学した後、茨木市に建設中のロックフィルダム・安威川ダムを見学しました。

10月15日(土)には、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会主催のリレー見学会との合同で、22人の参加があり、滋賀県の治水行政に長年携わってこられた中谷恵剛氏の解説で、瀬田川の唐橋袂にある鳥居川量水標を見学した後、西光寺の門前および善念寺の石垣にある1896(明治29)年の水位痕跡を見、善念寺では治田住職から説明を受けました。その後、守山市の「おうみんち」で昼食休憩を取り、昭和28年の野洲川大水害後の改修碑、竜王町弓削の治水施設、今年8月に溢水のあった長浜市高時川河口部などを見学しました。

11月26日(土)には、京都水辺保全ネットワーク主催の河川研修会との合同で、31名の参加があり、亀岡市篠町柏原(かぜばら)公民館で「平和池水害を語り継ぐ柏原75名の鎮魂歌」を自費出版された中尾祐蔵氏から説明を受けた後、慰霊塔や南つじヶ丘にあるダム跡地を訪ねました。その後、福知山のファミリーレストランで昼食を取った後、思いがけず自衛隊のパレードに出あい、カッパ研究会の大滝裕一氏の案内で御霊神社・堤防神社、治水記念館、明智藪、改堤碑、旧松村家住宅を見た後、舞鶴市志高へ向かい、洪水水位表示板や、平成16年の台風23号水害において、バスの屋根に避難した37人の命を繋げた木を車窓から見る事ができました。(O・Y)



平和池災害モニュメント

第15回 茨田イチョウまつり

11月27日(日)、寝屋川市点野・茨田樋遺跡水辺公園にて、第15回 茨田イチョウまつりを行いました。立派なイチョウの木の下で行われた当イベントは、参加者は120名程度で、親子連れでの参加者が多かったです。公園内では展示パネル、紙芝居や水族館、足踏み水車、Eボート体験等がありました。他にも大阪府の河川関係者や摂南大学の学生による発表があり、周辺地域についてどう考えているかなど興味深いものでした。私たちゼミ生は水族館を担当しました。午前中に点野のワンドで水生生物を取りましたが、ブルーギルなどの外来種の割合が多く見学する人たちも注目していました。イベントに参加していた子どもたちが様々なブースを回り、楽しんでいる姿が印象的でした。(S・S)



イチョウまつりのようす

イベント案内

近畿子どもの水辺交流会 in 兵庫

日時：2023年2月18日(土) 10:30~15:00(予定)

場所：兵庫県立 人と自然の博物館 ホロンピアホール ※ZOOMによるオンライン参加も出来ます

内容：①活動発表会 ②参加者との交流会 ③博物館見学&ダイオウイカの解体

淀川愛好会 総会 2023

日時：2023年2月25日(土) 11時~12時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科会議室

第7回 近畿河川フォーラム 兼 第25回 淀川討論会

日時：2023年2月25日（土）14時～17時

場所：摂南大学寝屋川キャンパス 12号館3階 1232教室

〈学生の窓 20〉

木津川を学ぶ喜び

須崎 陸斗

私は現在京田辺・玉水橋付近の木津川の上流・中流・下流の3つの高水敷たまりの調査に加えて、山城大橋付近のたまり2箇所の生態や水質環境や土砂環境のデータを、2月と10月に行った現地調査で得たサンプルのデータを比較しながら、それぞれのたまりにどのような環境の違いや生態の違いがあるのかを日々調べています。

私は以前、地元にある大和川についてしか河川の知識がなく、木津川については勉強不足で、研究を進めていく前段階ではとても不安でした。しかし、2月の後半に参加した木津川での中聖牛作りや、その他の様々な木津川での活動や、木津川であった水害の歴史について学んでいく中で、木津川の研究に携わっていることについて日々喜びを感じるようになりました。

卒業まであと僅かですが、このような喜びを感じながら残りの研究に取り組もうと考えています。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ4年生 就職先:株式会社村本建設)



書籍紹介



童話の泉 バスの屋根の上で

著者 白木恵委子

絵 うすい しゅん

発行所 けやき書房

発行日 2007年6月11日

A5判160ページ 定価 本体1400円

内容 2004年10月20日、台風23号の大雨で、由良川が氾濫し、乗客ら37人が観光バスの屋根の上で一晩を明かし、全員救助された事実に基づいて、どんなときでもあきらめない、希望を捨てない、人間の命を大切にすることを子どもたちにも知ってほしいと書かれた創作童話です。(S・K)

編集後記

ヨドリックニュースを発行して100回目の記念号となります。年4回を途切れることなく25年間の発行は、たくさんの会員の方々のご協力の賜物で、何と言っても100回も続けられたことが本当に凄いことです。今回、相談役の澤井健二氏がYodoric Newsの「100号の歩みを振り返って」の寄稿文を執筆して下さい、内容から本当にご苦労されたんだなあ！と「ひしひし」と25年間に積み重ねられた100号だったと感じました。

今後のヨドリックニュースの紙面の内容をさらに充実していく所存です。新たなスタートの101号から更なる25年間を目指し頑張っていくためにも、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集長 岡崎善久(岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/~civ/teachers/yodoric/>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp